

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズリオン ヴェール		
○保護者評価実施期間	2026年2月9日		～ 2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 14
○従業員評価実施期間	2026年2月9日		～ 2026年2月20日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ABA療法の考え方を取り入れ、子どもの行動の背景やきっかけを分析しながら、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	職員間で毎朝カンファレンスを実施し、利用児の状況や支援方法について情報共有を行い、基本的な関わり方やルールについて共通理解を図っている。	事業所内だけでなくご家庭での様子についても情報共有を行い、ご家庭と連携しながら子どもが安心して過ごせるよう支援の充実を図っていく。
2	食育活動や所外療育を通して、日常生活に必要な生活スキルや社会性を身につける機会を設けている。	食事のマナーや順番を待つこと、店内での過ごし方など、実際の生活場面を想定した支援を意識して行っている。	事業所での経験が家庭生活にも繋がるよう、ご家庭と情報共有を行いながら生活スキルの定着を図っていく。
3	集団活動やダンスなど、楽しみながら体を動かす活動を取り入れ、運動機会の確保と集団参加の経験を積むことができる。	子どもが無理なく参加できるよう、活動内容や運動量を調節しながら、楽しんで取り組める雰囲気づくりを大切にしている。	今後も様々な運動活動を取り入れ、体を動かす楽しさを感じながら継続して参加できる機会を増やしていく。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員数に限りがあるため、支援内容をさらに充実させるための時間や体制に余裕が少ない場合がある。	個別課題や行動面への支援など、一人ひとりに合わせた支援を行っているため、場面によっては職員の対応が必要となることが多い	職員間での情報共有や役割分担を工夫しながら支援体制を整えるとともに、今後は職員研修や人材確保にも取り組み、より安定した支援体制の充実を図っていく。
2	地域との交流や地域活動への参加の機会が十分とは言えない。	日々の事業所内での支援が中心となっており、地域との交流活動の機会が限られている。	相談支援専門員や学校、行政など関係機関との情報共有を継続しながら、地域資源を活用した活動や地域との関わりを広げていけるよう取り組んでいく。
3			